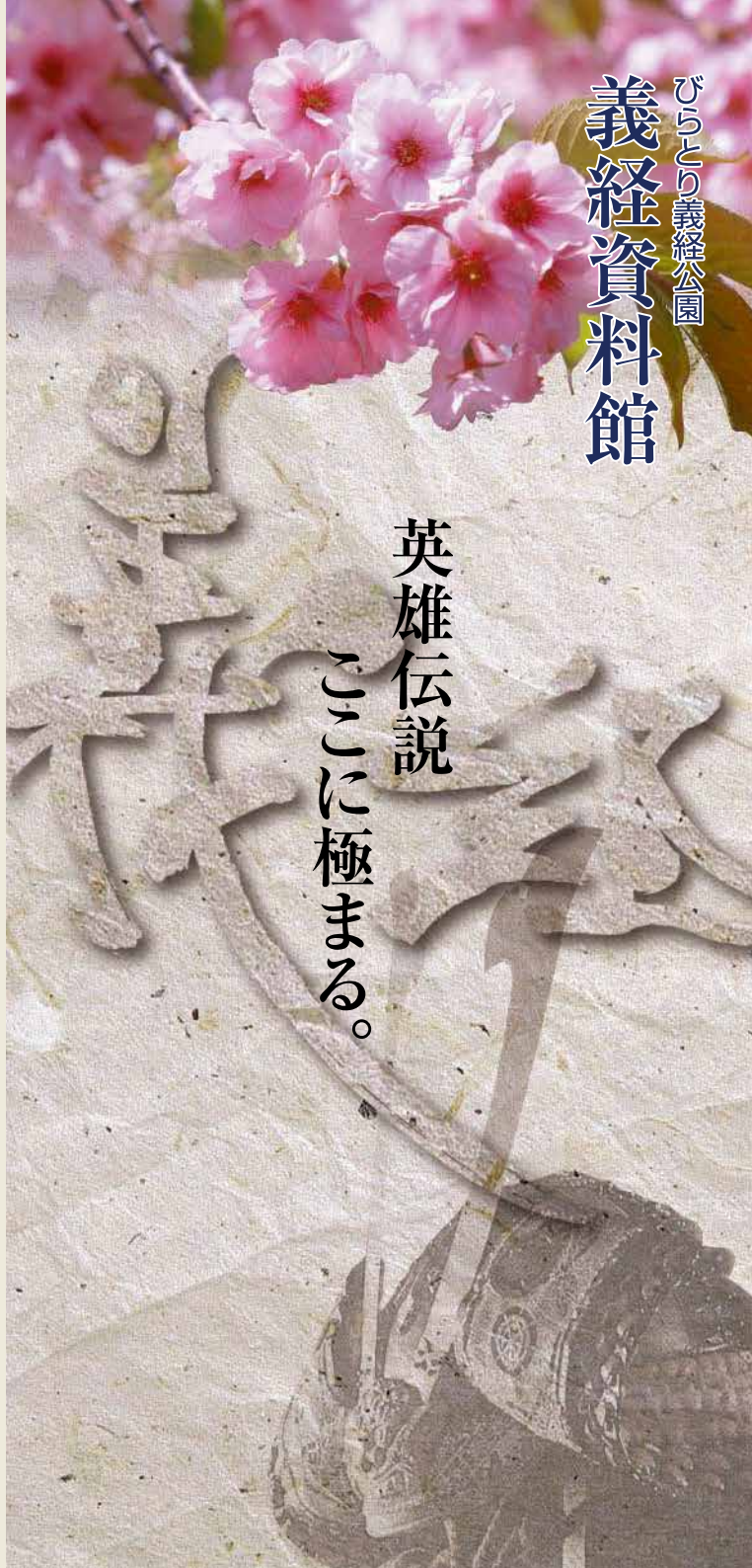


びらとり義経公園

義経資料館

英雄伝説 ここに極まる。

義経公園

義経公園は、義経神社境内を中心に美しい自然に恵まれた背後地一帯をエリアとしています。

平成元年、生活環境保全林整備事業により、保健保安林として展望台、遊歩道、あづま屋、池、ベンチ、駐車場等が整備され自然と親しめる公園として広く利用されています。

神社横の遊歩道をたどると、市街を望む展望台につきます。春はサクラにツツジ、夏はシャクナゲ、秋は紅葉のカエデなどにつつまれる公園内、そして東方には日高連峰、南には清らかな沙流川、さらにその向こうには陽光に輝く太平洋が望めます。

義経伝説

源義経公は、源平の戦いの後、頼朝により鎌倉への凱旋を拒まれ、京都堀川の屋敷を襲撃された義経は京都を去り、伊勢皇太神宮に太刀を奉納し、奥州平泉、藤原秀衡のもとに身を寄せました。「東鑑」には文治5年（1189年）閏年4月30日、秀衡の嫡男泰衡に襲われ、高館に火を放ち、自刃したとありますが、身代わりとの説もあります。

ひそかに義経公一行は、陸奥から蝦夷地白神（現福島町）に渡り、西海岸を北上、アイヌの集落が栄えていたピラトリ（平取町本町）に一時居住し、住民を外敵より守り、カムイ（神）と尊敬されました。その後、新しく部下に加わった若者や藤原氏残党とともに大陸へ向けて出発したといわれています。

アジアの大半を征服した蒙古のジンギスカンと義経公を史実上の共通点の多さから同一人物とする伝えもあります。

義経神社

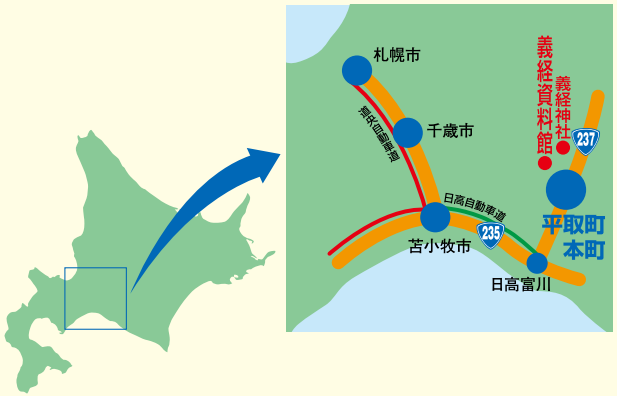
義経神社は源義経公を御祭神としておりますが、寛政11年（1799年）近藤重蔵らが御神像を寄進し、この地に安置させたのが始まりです。

明治9年に村社に列格され、名実共に平取義経神社として全国にその名を広めました。

本社にまつわる義経伝説には、義経公の滞在中、アイヌ民族をこよなく愛し、農耕や舟の作り方、操法、機織り等の技能を伝授したことから、住民は義経公を慕い「判官様」または「ホンカンカムイ」と呼んで尊崇していたと伝えられています。

また、本社は自然環境にも恵まれ、憩いの場として、四季を通して多くの人々が訪れ、散策等を楽しまれております。

ご　利　用　案　内



入館料	大人／200円　小人／100円
開館時間	AM9:00～PM5:00
休館日	月曜日 ※冬期12～4月のご利用については事前にご連絡下さい。

お問い合わせ
平取町観光協会
(事務局／平取町役場)
沙流郡平取町本町28番地
TEL(01457)3-7703
FAX(01457)2-2277

2016.07

百余の伝説、今、歴史の中から語りかけてきます。

「義経公御神像」

寛政十年（七九八年）に近藤重蔵が東蝦夷地を探検の際、この地のアイヌ民族が源九郎判官義経公を崇敬していることを知り、法橋善啓に義経公の像を作らせ平取の地に寄進安置したと記録に残っております。

この木像は高さ一尺程で御神像台座の背面には、「寛政十二年己未四月二十八日近藤重蔵・藤原守重、比企市郎右衛門・藤原可満」と墨書されており台座底には「江戸神田住大仏工法橋善啓」と書かれております。

■絵本義経一代実記
天明7年(1787年)

■義経公北之方伝記
コンニャク版画

■御輿

昭和4年8月に、氏子一同が寄進したもので、屋根の頂上には鳳凰が置かれ、華麗な装飾が全体に施された豪華絢爛な造りは、威風堂々とした当時の姿を今も伝えております。

8月15日の大祭には、かつて御神馬を交えた華麗な武者行列が行われ、この神輿は格式と伝統ある行列の中心となり注目を集めました。現在は義経神社の御神幸の中心をなす神輿として保存されています。

■甲冑
（籠手、腰当て、毛靴、佩立、唐ひつ付き）
総丈約175㎝

■錦絵額（黒塗り金ライン）　75cm×37cm

〈義経之家人 一騎當千・二十一騎之図〉

〈源義経逆櫓之図〉万延元年（1860年）

■扇型絵馬（木額入り）
額65cm×63cm

■陣太鼓（笹竜胆紋入り平釣台付き）
直径36cm・奥行15cm・平釣台高さ80cm

■太刀（紋金蒔絵入り、太刀かけ付き）
刃渡り71㎝